

はびきのニュース

臨床検査科・病理診断科が「ISO 15189」に認定されました

大阪はびきの医療センター臨床検査科・病理診断科は、病院の理念と基本方針に基づき、安全かつ高度な医療の実現のため、質の高い臨床検査サービスの提供に努めています。

2025年5月23日、臨床検査室の品質と能力に関する国際標準マネジメントシステム規格である「**ISO 15189**」に適合していることが認められました。



ISO 15189 とは？

正確な検査結果を提供するための、高度な能力と品質を有する臨床検査室に対して国際標準化機構（International Organization for Standardization）が作成した国際規格です。

検査の品質だけでなく、劇薬の取り扱い方法や人材の育成など、検査室の能力を総合的に評価します。

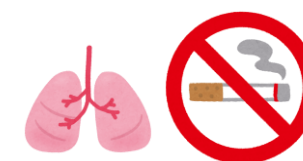
ISO15189の取得は、当センターの臨床検査室が国際的にも十分な水準を満たしていることを意味し、大阪府立病院機構では急性期・総合医療センター、国際がんセンターに次いで3施設目の認定となります。



今後も、継続的な改善を図りながら、迅速で信頼性の高い検査を提供できるよう、職員一同引き続き精進してまいります。

はびきの診療科コラム①

肺の手術とタバコについて



タバコが体に悪影響を及ぼすことは科学的に証明されており、多くの公共施設で禁煙、分煙が実施されています。長年の喫煙が、呼吸機能の低下を招くこと、また肺癌や心疾患の原因の一つでもあることがよく知られています。

喫煙習慣のために呼吸機能が低下している患者さんでは、同様の手術でもより大きな負担になるといえます。また、喫煙は気道内の分泌物(痰など)を増加させるため、手術後に肺炎を発症する原因になります。

当院ではできるだけ良いコンディションで治療に臨んでもらうため、呼吸器外科手術の前には約1ヶ月の禁煙期間を取っています。また呼吸機能が低下した患者さんには、理学療法士さんによる呼吸器リハビリテーションを行い、入院治療をサポートしています。

呼吸器外科 主任部長 門田 嘉久

はびきの診療科コラム②

重症喘息と新しい治療法



喘息は、咳や息切れ、喘鳴（ゼーゼー音）などを引き起こす慢性の気道炎症疾患であり、多くの方が吸入薬によって良好にコントロールできます。しかし中には、吸入薬をきちんと使用していても症状が繰り返し現れ、年に何度もステロイド内服や点滴が必要になる「重症喘息」と呼ばれる方もいらっしゃいます。

かつて重症喘息に対しては、「副腎皮質ステロイド（内服薬）」を長期にわたって使用することが一般的でした。しかしこの治療法は、骨粗鬆症・感染症・白内障などの副作用を伴いやすく、長い目で見ると患者さんの生活の質（QOL）を著しく低下させることが問題でした。

こうした背景の中、近年は「生物学的製剤（バイオ製剤）」という新しい選択肢が登場し、注目を集めています。これは、喘息を悪化させる原因となる“サイトカイン”という物質をピンポイントで抑えるお薬です。

サイトカインとは、**体内の細胞同士が情報をやりとりする“メッセージ物質”**で、私たちの体を守る重要な役割を果たしています。しかし、ある種のサイトカインが過剰に働くと、気道の炎症を強め、喘息症状を悪化させてしまいます。生物学的製剤は、この“出過ぎたメッセージ”をブロックすることで、炎症を抑え、喘息のコントロールを大きく改善することが期待されています。

実際に当センターでも、吸入治療で十分な効果が得られなかった方や、年に2回以上ステロイド治療が必要だった方が、この治療によって入院回数が減少し、日常生活が大きく改善した例を多く経験しています。

もし、「吸入薬を使っているのに症状がよくならない」「ステロイド治療を繰り返している」という方がいらっしゃれば、ぜひ一度、専門医にご相談ください。重症喘息に対する医療は、確実に進化しています。

アレルギー・リウマチ内科 主任部長 松野 治



はびきのトピックス①

5月9日「看護の日」のイベントを開催しました

当センターでは、毎年5月に「看護の日」のイベントを開催しています。「看護の日」とは、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなんで制定された記念日です。今年は『届け、はびきの看護の温かさ』をテーマに、折り鶴でのモザイクアート作成や輪投げ・魚釣りのゲーム、感染対策のための手洗いチェックなどを行いました。子どもたちや患者さんとのふれあう時間は、互いに笑顔になる温かい時間となりました！



はびきのトピックス②

府民公開講座「羽曳野からだ塾」開催のお知らせ

府民の皆さまの健康増進を目的に、9月6日（土）に当センターにて府民公開講座「羽曳野からだ塾」を開催いたします。

テーマは「元気に歩けるために～骨と関節のケアが大事！」と題し、高齢化が進む日本において、府民が健康寿命を延ばし、社会全体の活性化に貢献するために大切な「骨と関節のケア」について、分かりやすく丁寧にお話しいたします。ぜひご参加ください！



- ★ 日 時 2025年9月6日（土）14:00～16:00
- ★ 会 場 大阪はびきの医療センター 3階 講堂
- ★ 定 員 先着150名（定員になり次第、締め切ります）
- ★ 費 用 無料

申し込み方法・問い合わせ等、詳細は
当センターHPをご覧ください！ →



- ★ テーマ「元気に歩けるために～骨と関節のケアが大事！」
- ★ 講演の内容

- ①「骨折を防ごう - 骨粗鬆症のケア」
整形外科 副部長 谷内 孝次
- ②「関節痛の原因と治療は？」
整形外科 主任部長 西井 孝
- ③「元気に歩けるためのカラダづくりのポイント」
リハビリテーション科 奥野 友和

はびきのトピックス③

アレルギー・リウマチ 治療と仕事・学業の両立支援センター



アレルギー・リウマチ疾患の患者さんが、適切な治療を受けながら、仕事や学業を続けるための両立支援センターを開設しました。

当両立支援センターでは複数領域の専門医(アレルギー・リウマチ内科、皮膚科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、小児科)と主治医、多職種スタッフ、両立支援コーディネーターが協力し、治療とともに、仕事の継続や学業に臨める両立環境をチームで支援します。

詳しくは、当センターホームページをご覧ください！（※右上のQRコードからご覧いただけます。）

令和7年度 厚生労働省モデル事業

★両立支援対象

1. 既に就労しているアレルギー・リウマチ疾患患者の治療と仕事の両立支援（家族にアレルギー・リウマチ疾患患者を持つ就労者を含む）
2. (将来の就労を見越した)思春期重症アレルギー疾患(重症アトピー性皮膚炎など)患者に対する積極的治療の啓発・推進
3. 重症アレルギー・リウマチ疾患(重症アトピー性皮膚炎など)のために就労経験の乏しい若年成人患者に対する治療の啓発・就労支援

★相談日時

相談日時（予約制）

初めての方：平日14:00-15:00

継続の方：平日15:00-15:30、15:30-16:00

担 当：両立支援コーディネーター

相談料：無料

※まず両立支援コーディネーターとの相談予約日に面談をいたします。

